

麦類の生育が早まっており、一部では赤かび病の発生が確認されています！

適期収穫、適正な乾燥調製を徹底しましょう！

1 作物名 麦類

2 発生現況

- (1) 作況試験ほ(古川農業試験場)における麦類の生育が平年より進んでおり、出穂期及び開花期はいずれの品種も平年より約10日早まった(表1)。また、成熟期も早まることが予想される。
- (2) 定点調査ほ(古川農業試験場)では、大麦及び小麦ともに平年より早く初発が確認された(表2)。
- (3) 5月中旬の巡回調査の結果、発生地点率及び発病穂率はともに平年より高かった(図1)。

表1 令和5年播種(令和6年産)麦類作況試験生育状況

麦種	品種	出穂期(月/日)		開花期(月/日)		成熟期(月/日)	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
大麦	シュンライ	4/15	4/25	4/22	5/2	—	6/6
	ミノリムギ	4/19	4/29	4/25	5/5	—	6/9
小麦	シラネコムギ	4/26	5/5	5/5	5/14	—	6/22
	夏黄金	4/26	5/6	5/5	5/14	—	6/23

※作況試験ほ:古川農業試験場、播種日:令和5年10月中旬

※平年値は過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値(「夏黄金」は平成28年播種より供試のため5か年の平均値)

表2 定点調査ほにおける麦類赤かび病の初発日

麦種	品種	初発日	
		本年	平年
大麦	シュンライ	5/2	5/19
	ミノリムギ	5/8	5/23
小麦	あおぼの恋	5/15	5/30
	シラネコムギ	5/17	6/1
	夏黄金	5/17	5/31

※定点調査ほ:古川農業試験場

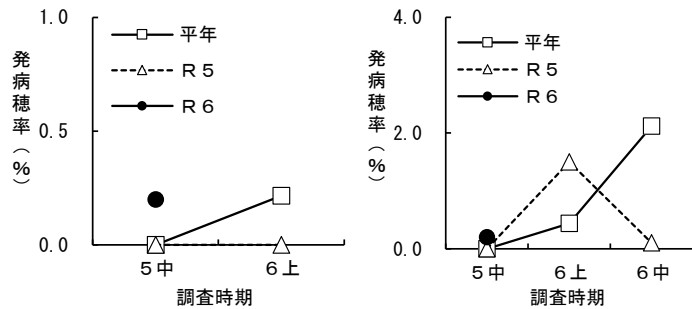


図1 麦類赤かび病の発病穂率の推移
※左図:大麦、右図:小麦
(病害虫防除所)

3 防除のポイント

- (1) 「夏黄金」の薬剤防除は3回を基本とし、3回目は2回目の7~10日後に実施する。小麦の他品種についても、赤かび病の発生が目立つ場合は3回目の防除を検討する。
- (2) 本年の成熟期は早まることが予測されるため、熟期を確認し、刈り遅れのないよう適期収穫を行う(表1)。成熟期の子実水分は概ね32~45%で、登熟日数は大麦で出穂後約40日~45日、小麦では出穂後約45~50日である。
- (3) 登熟期間に降雨や湿度が高い日が多いと赤かび病の進展が助長されるため、刈り遅れのないように適期に収穫する。

- (4) ほ場を見回り、発病が確認されたほ場は収穫時に刈り分けする(登熟後期は発病が見えにくくなるので注意する)。
- (5) 子実の過湿状態での放置は赤かび病菌が増殖する原因となるため、収穫後は速やかに乾燥作業を行う。
- (6) 比重選別や粒厚選別が赤かび病粒の除去に有効であり、併用することで、より効果的に除去できる。
- (7) 被害残渣(麦わらやこぼれ麦等)は早めに耕起し、土壌中にすき込むか、ほ場外へ持ち出し、次作の伝染源密度を低下させる。

～ムギ類赤かび病の農産物検査規格及びかび毒について～

農産物検査規格上、赤かび粒の混入は0.0%以下(1万粒検査した場合4粒以下)と定められており、これを超えると規格外となってしまいます。

また、赤かび病菌は人や家畜に有毒なかび毒であるデオキシニバレノール(DON)やニバレノール(NIV)を生産し、日本では小麦に含まれるDONの基準値が1.0ppmと定められているため、基準値を超えた小麦は食品衛生法上、流通することができません。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム